

1. 今年度のポイント

- ・生徒用アンケート質問項目に「自分の良いところを学校等で活かそうとしている」などの7項目を加えた。
- ・項目 E.「判断できない・わからない」をなくし、項目 A.「よくあてはまる」～項目 D.「まったくあてはまらない」までの4つの回答とした。

2. 回収数 保護者の提出数が低下傾向。情報共有ツールを利活用し、今後提出率 40%以上を継続していく。

学校から保護者への連絡は「クラスルーム」から他の連絡ツールへ移行する予定。保護者が学校からの情報を確認しやすくなるよう学校からの発信を強化していきたい。

		2025 年度		2024 年度		2023 年度		2022 年度		2021 年	
生徒	提出数	446		541		605		649		745	
	在籍数	518		603		674		702		772	
	提出率	86.1%	-3.6	89.7%	±0	89.7%	-2.7	92.4%	-4.1	96.5%	
保護者	提出数	132		178		176		215			
	在籍数	518		603		674		702			
	提出率	25.4%	-4.1	29.5%	+3.4	26.1%	-4.5	30.6%	-18.8	49.4%	
教	提出数	42		41		45		55		42	

3. 全体の特徴 減少傾向。学校の強みと課題、方向性を共有しながら、分掌や教科を横断した取り組みが急務。

大阪府の基準でプラス評価の比率を表にすると以下の通り。 府教委基準の評価 $P=(A+B)*100/(A+B+C+D)$ 単位%

府教委 P	2025 年度		2024 年度		2023 年度		2022 年度		2021 年度	
	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比	平均	前年比
生徒	79.8	-1.7	81.5	-0.1	81.6	+3.9	77.7	-0.4	78.1	+4.3
保護者	76.9	-3.0	79.9	+0.1	79.8	-1.0	80.8	+0.1	80.7	+3.9
教員	74.6	-2.7	77.3	-1.1	78.4	+1.2	77.2	+4.1	73.1	+8.9

保護者のプラス評価が高い項目

- 21 学校では子どもに関する個人情報を守られている…95P（昨年 99P）
- 29 学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している…90P（昨年 95P）
- 26 学校は社会や地域貢献活動に力を入れている…86P（昨年 92P）
- 7 学校は保護者の相談に適切に応じてくれる…85P（昨年 86P）
- 16 学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている…85P（昨年 86P）
- 25 懇談週間は生徒・保護者・教員の意思疎通のために活用されている…85P（昨年 92P）
- 12 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている…84P（昨年 84P）
- 5 テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行ってくれる…83P（昨年 87P）

4. 個別的内容

- (1)授業におけるＩＣＴ機器の活用は定着しているが、授業に関する項目では減少しているものもあるため、「わかる授業をめざした取り組み」を各教科や分掌間で継続して共有していく。

(生徒) 授業に関する項目 (%)	2025	2024	2023
41.学校では1人1台端末が効果的に活用されている	92	93	94
32.ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある。	89	89	89
7.教え方に工夫をしている先生が多い。	81	83	84
4.授業はわかりやすい。	78	77	78
33.他の先生が授業を見学に来ることがある。	80	80	78
6.授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。	79	78	76
(保護者) 4.子どもは授業がわかりやすいと言っている。	50	56	57
(生徒) 42.家庭学習が習慣となった(昨年度からの追加項目)	52	53	*

- (2)過去3年、改善傾向がみられる、または90%が維持されている項目。

(生徒) (%)	2025	2024	2023
6. 授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある	79	78	76
13. 担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することのできる先生がいる	75	74	67
39. 勉強方法が身に付いた	75	71	69
2. この学校には、他の学校にない特色がある	66	66	63
(保護者) (%)			
21. 学校では子どもに関する個人情報が守られている。	95	99	97
29. 学校1人1台端末を効果的に活用している。	90	95	94
8. 先生は子どものまちがった行動を正しく指導してくれる。	83	81	80

「35.学校は各種検定試験の指導に力を入れている」は生徒のプラス評価も86Pと昨年度と同水準を維持(昨年度87P)。「学校の特色」については「社会貢献活動」と上記の「検定試験指導」とあわせて取り組むことで、保護者の認知も定着させたい。引き続き保護者の提出率が低い傾向にあるのが不安材料。次年度はさらに学校からの情報発信を強化することで提出率の向上と維持を図りたい。

5. 今後の課題

- (1)チーム学校・学年や分掌横断体制・教育相談と一体となった支援・家庭や関係機関との連携協働等が引き続き求められる。(一昨年度から継続)。
- (2)(教員)「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」(+ポイント36(2025)43(2024)34(2023))は数値が一昨年並みに後退。校内研修の充実とあわせて、教科内や分掌内で定期的に情報共有の時間を設けるなど、持続可能な仕組み作りが必要となる。

参考

(生徒) 肯定率(%)	2025	2024	2023
8.授業でわからないことについて、先生に質問しやすい	77	80	75
15.学校では、遅刻指導に力を入れている	92	93	95
28.部活動は盛んである	83	82	83
31.教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている	88	86	87
34.先生は生徒のプライバシーや他の人に知られたくない秘密を守ってくれると思う	88	85	87
40.授業や体験活動を通して、自信がついた	76	72	72

↑ 生徒が選択できる選択肢が 5 項目※になっていた質問項目

※ 5 項目目「E. 判断できない・わからない」

他の質問項目は選択肢が 4 項目のため、分けて掲載した。